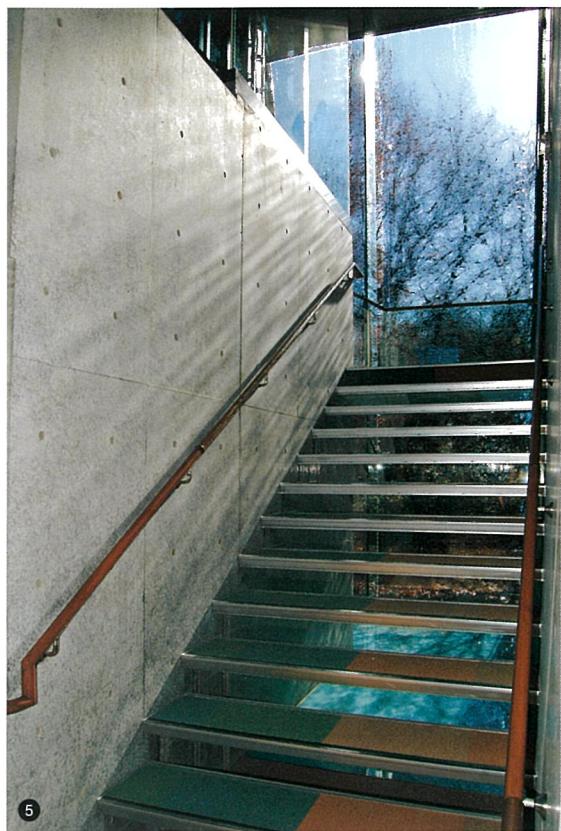


ルーテル学院大学新校舎(トリニティホール) 東京都三鷹市

Takeo Muraji/Muraji Takeo Architectural Laboratory
Japan Lutheran College Trinity Hall, Mitaka-shi, Tokyo



この新校舎は、新学科設置に伴い、施設が手狭になり建設された。既存校舎は村野藤吾氏の設計であり、そのコンテキストを継承すると共に、学生の夢を反映すべくワークショップを行った。既存校舎と村野氏との関係を調べる中で、そのコンセプトとして小冊子「神の民の家」(ソビック博士著)があることを知った。小冊子が示す「神が臨在する空間」の理解とそれを受けた村野氏のデザインの読み取りが求められた。これを通して、デザインキーワードとして「十字架、安定感、壁構造、地窓、聖霊を感じるステンドグラスなど」が挙げられた。学生参加のワークショップからは、生活スペースの充実と木質感、曲線を活かしたデザインが求められた。これらから具体的なデザインとして、十字架形からプランニングすると共に、曲面を庇や大教室の屋根に反映させた。平面に台形を用いると共に断面も台形とし安定感を加味した。吹抜けのあるホールとそれに繋がるラウンジ、窓を全開放すればデッキと一緒に使用できるなど開放的な空間と共に天井や日除けなどに木格子を設けるなど木の良さが感じられる空間作りを目指した。トップライトを十字架形に配し、光触媒処理をしたガラスに雨水による散水システムを設け、打ち水効果から冷房負荷を軽減することや風力発電によるネオンアート点灯など設備的工夫を行った。構造的には耐火性能検証法を行い、RC造のフラットスラブ構造を基本に大教室の屋根に木造架構を用いた。写真撮影=①雨田芳明、②③④⑤連健夫、

①台形の安定感、木質の良さと曲線を意識した ②吹き抜けのあるホールはトップライトで明るい ③大教室の入口は認識しやすいように色分けした ④大教室の屋根は木造架構で支えた ⑤窓の散水で、ゆらぐ景色に聖霊を想起させる

